

薬学部

創立40周年 新校舎竣工

盛大に記念式典

東京理科大学報

発行所
東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学
広報委員会
☎03-3260-4271
http://www.tus.ac.jp/



主な内容

- 6面 平成14年度決算報告／館内禁煙について／L・パストゥール大学とシンポジウム開く
- 5面 文部科学省科学研究費補助金／薬剤師国家試験結果／米SUN社とCOE契約
- 4面 長万部研修バス事故総括／薬学講座
- 3面 山口東京理科大学ニュース
- 2面 諏訪東京理科大学ニュース



記念式典で式辞を述べる塚本理事長



鏡開きをする左から中西日本薬剤師会会長、塚本理事長、野口本学特別顧問、藤井日本病院薬剤師会顧問(参議院議員)、岡村学長

五月三十一日(土)、野田キャンパス薬学部新校舎で「薬学部創立四十周年・新校舎竣工記念式典」が開催された。式典には、来賓百五十一人を含む約二百五十人の出席者があり、文部科学省、厚生労働省、日本私立大学協会、日本私立薬科大学協会、日本薬学会からの祝辞のほか、武田薬学部長から新生薬学部の研究内容と各種施設についての説明等が行われた。

また、式典に引き続き、本学の特別顧問で理化学研究所脳科学総合研究センター所長の伊藤正男氏による「脳科学が予見する未来社会の姿」と題した記念講演が行われ、来賓をはじめ薬学部の学生も多数聴講し、熱心に聞き入る姿が見られた。

今回の薬学部移転は社会的注目度も高く、式典に先立ち五月二十日に神楽坂校舎で行われた理事長、学長、薬学部長による記者会見には、新聞社六社を含む十九社、五月二十六日の野田校舎で行われた、見学会を兼ねた薬学部長による会見には、NHK、新聞社を含む十四社が参加。五月三十一日の式典当日にも、八社の記者が式典開始前の施設見学会および式典の取材を行い、本学薬学部の移転に関する報道が行われた。

平成15年度 ●国家公務員採用I種試験● 大学別最終合格者数

順位	大学名	合格者数
①	東京大学	488
②	京都大学	200
*③	早稲田大学	118
*④	慶應義塾大学	82
⑤	東北大学	75
⑥	九州大学	63
⑦	北海道大学	57
⑧	東京工業大学	50
⑨	名古屋大学	48
⑩	大阪大学	47
⑪	大橋大学	36
*⑫	東京理科大学	35
⑬	神戸大学	34
*⑭	立命館大学	31
*⑮	中央大学	29
⑯	東京農工大学	28
⑰	筑波大学	27
*⑱	同志社大学	20
⑲	千葉大学	14
⑳	岡山大学	12
*㉑	明治大学	12
㉒	横浜国立大学	11

*は私立大学を表す

人事院は六月二十七日、六八〇人の二・六倍である平成十五年国家公務員採用I種試験の合格者を発表し、採用予定人員の二・五倍に達した。この状況の中で、本学の合格者数は前年度より九人増の三十五人となり、七年ぶりに三〇人の大台を突破した。本年度の本学からの申込者数は約一割減少する中でのこの結果は大いに喜ぶべきものである。更に、女性の合格者数は二

に、大学別順位では全国の国公私立大学中十二位となり、前年度より三ランクアップした。私立大学中では早稲田大学、慶應義塾大学に続いて三位となり、大いに健闘したといえる。理工系区分の学部別合格者の割合を見ると、全国平均では、学部生(含む卒業生)が二六・一％、大学院生(含む修士生)が七三・七％であるのに対し、本学では学部生が五一・四％(三・五人中一・八人)と極めて高いのが特徴である。国家公務員採用I種試験は、司法試験などと並び最も難関の国家試験の一つであるが、本学では、就職資料室には多くの資料を揃え、相談にも随時応じているので積極的に活用してほしい。

「文明は生き物である。――ゲノム研究の第一人者・中村桂子氏のことばである。自然科学分野の対象は普遍性を、社会科学・人文科学分野では特殊性、多様性を重視して、それぞれを区別して把握することが常である。しかしゲノムのもつ普遍性と多様性に根ざした知見に照らし合わせてみると、人類学や社会学の分野での歴史的研究やその将来の方向性がみえてくるのは興味深い。▼生きた環境に忠実に、岡村学長が「情報」「物質」「エネルギー」のやり取りをバランスよく調整し、ゲノムの柔軟な力で複雑多様な生命現象は維持されている。そのシステムとしての発展形を人間社会における文明として理解することもある。▼古代の哲学者が求めた知るので、今後とも積極的な受験を期待したい。

I種35人合格、私大3位

本学大健闘

本年度国家公務員試験

本学では次年度に向け、会において、効率性の追求、ならびに構造と機能のダンス・公務員試験対策講座・模擬試験・省庁説明会・地方公務員説明会などを随時開催し、年間を通して公務員希望者を全面的にバックアップしていくこととしている。公務員希望者にはもちろん、その他の進路を希望する学生も選択の幅を広げる意味でこれらの支援行事に積極的に参加して現である。▼二十一世紀に入り、いま一度「知」の探究は、早めの対策を立て計画的に取り組めば、決して困難ではないので、ぜひチャレンジするか。東京理科大学が、自然現象と社会現象の相克を幅広く視野にいたれた地球市民のためのサイエンスの追求で世界をリードしていくことを願う。(N・E)

岡村学長が1日消防署長



六月十二日、十三日に神行われ、十三日には岡村学長が一日消防署長として、二日消防署長として、

参加したII写真左。訓練は毎年この時期に牛館実験室の防災パトロールを実施。危険物の防災点検などを行った。続いて、訓練参加者と共に1号館駐車場の移動。はし車で1号館七階から逃げ遅れた人を救出する避難訓練を視察

最後に、岡村学長と牛達消防署長から講評があり、無事に訓練が終了した。



2004 大学案内 完成!

2004年版大学案内・第二部案内が完成しました。入手ご希望の方は、入試センターまたは各キャンパス事務室に申し出ていただくか、以下の方法でお申し込みください。

- ①本学ホームページ
http://www.tus.ac.jp/admis/nyushij/seido/siryou/index.html
- ②FAX 03-5228-8093 (入試センター)
※住所、氏名、電話、高校名と希望する案内名を記入のこと。

<お問い合わせ 入試センター 03-5228-8092>

年々歳々

「文明は生き物である。――ゲノム研究の第一人者・中村桂子氏のことばである。自然科学分野の対象は普遍性を、社会科学・人文科学分野では特殊性、多様性を重視して、それぞれを区別して把握することが常である。しかしゲノムのもつ普遍性と多様性に根ざした知見に照らし合わせてみると、人類学や社会学の分野での歴史的研究やその将来の方向性がみえてくるのは興味深い。▼生きた環境に忠実に、岡村学長が「情報」「物質」「エネルギー」のやり取りをバランスよく調整し、ゲノムの柔軟な力で複雑多様な生命現象は維持されている。そのシステムとしての発展形を人間社会における文明として理解することもある。▼古代の哲学者が求めた知るので、今後とも積極的な受験を期待したい。

平成14年度決算報告

学校法人
東京理科大学

一、消費収支計算書

平成十四年度消費収入
は、予算比二億九万円増の二六億五四〇六万円
は、予算比二億二四四万
円増の二六億九八二七
円増の四三億八三九八
円増の四〇六億四二四
三万円増の資産の

ある。

これに対して消費支出
三三二二万円の支出超過
は、前年度繰越消費支
出超過額四億四〇三九
万円増の四三億八三九
八万円増の資産の

二、資金収支計算書

平成十四年度資金収入
は、予算比一億六五三
八〇円増の四〇六億四
二四三万円増の資産
の

二、資金収支計算書

平成十四年度未の資産の

三、貸借対照表

平成十四年度未の資産の
基本金の部合計は、前
年（http://www.us.ac.jp/info/suinfo/kesan.html）

詳細は

増の二二四億九七七
万円の増である。

消費収支差額の部合計は、
翌年度繰越消費支出超過額
が二億七、七〇万円である。

また、負債の部合計は、
前年度末比一三億三三三
万円減の三三億九〇七〇
万円である。

基本金の部合計は、前
年（http://www.us.ac.jp/info/suinfo/kesan.html）

平成14年度 資金収支計算書

（自 平成14年4月1日
至 平成15年3月31日）
（単位：円）

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	24,485,840,000	24,686,973,048	△ 201,133,048
手数料収入	1,658,238,000	1,753,870,650	△ 95,632,650
寄付金収入	368,857,000	267,707,348	101,149,652
補助金収入	4,986,676,000	5,425,725,534	△ 439,049,534
資産運用収入	143,694,000	137,275,853	6,418,147
事業収入	557,201,000	439,105,506	118,095,494
雑収入	539,850,000	941,130,665	△ 401,280,665
前受金収入	15,775,580,000	15,850,808,407	△ 75,228,407
その他の収入	10,004,584,000	10,851,495,536	△ 846,911,536
資金収入調整勘定	△16,290,348,000	△16,470,117,022	179,769,022
前年度繰越支払資金	38,885,247,054	38,885,247,054	
収入の部合計	81,115,419,054	82,769,222,579	△ 1,653,803,525
人件費支出	14,501,307,000	14,492,320,320	8,986,680
教育研究経費支出	6,652,946,000	6,654,452,898	△ 1,506,898
管理経費支出	1,894,768,000	1,538,860,970	355,907,030
借入金等利息支出	71,038,000	71,038,062	△ 62
借入金等返済支出	323,350,000	323,350,000	0
施設関係支出	8,142,267,000	8,810,249,402	△ 667,982,402
設備関係支出	3,241,288,000	3,228,095,941	13,192,059
資産運用支出	3,047,000,000	3,809,386,853	△ 762,386,853
その他の支出	3,210,136,000	3,027,662,149	182,473,851
〔予 備 費〕	(300,000,000)		0
資金支出調整勘定	△ 563,088,000	△ 1,312,991,419	749,903,419
次年度繰越支払資金	40,594,407,054	42,126,797,403	△ 1,532,390,349
支出の部合計	81,115,419,054	82,769,222,579	△ 1,653,803,525

平成14年度 消費収支計算書

（自 平成14年4月1日
至 平成15年3月31日）
（単位：円）

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	24,485,840,000	24,686,973,048	△ 201,133,048
手数料	1,658,238,000	1,753,870,650	△ 95,632,650
寄付金	683,021,000	812,017,612	△ 128,996,612
補助金	4,986,676,000	5,425,725,534	△ 439,049,534
資産運用収入	143,694,000	137,275,853	6,418,147
事業収入	557,201,000	439,105,506	118,095,494
雑収入	539,850,000	941,275,865	△ 401,425,865
帰属収入合計	33,054,520,000	34,196,244,068	△ 1,141,724,068
基本金組入額合計	△ 9,000,554,000	△ 8,042,184,993	△ 958,369,007
消費収入の部合計	24,053,966,000	26,154,059,075	△ 2,100,093,075
人件費	14,501,307,000	14,455,124,000	46,183,000
教育研究経費	10,245,689,000	10,468,027,679	△ 222,338,679
管理経費	1,983,683,000	1,626,814,002	356,868,998
借入金等利息	71,038,000	71,038,062	△ 62
資産処分差額	0	362,018,649	△ 362,018,649
徴収不能引当金繰入額	0	3,252,000	△ 3,252,000
〔予 備 費〕	(0)		0
消費支出の部合計	27,101,717,000	26,986,274,392	115,442,608
当年度消費支出超過額	3,047,751,000	832,215,317	
前年度繰越消費支出超過額	440,387,454	440,387,454	
翌年度繰越消費支出超過額	3,488,138,454	1,272,602,771	

貸借対照表

平成15年3月31日

（単位：円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	104,541,004,636	101,220,902,146	3,320,102,490
有形固定資産	88,772,462,426	80,440,152,322	8,332,310,104
その他の固定資産	15,768,542,210	20,780,749,824	△ 5,012,207,614
流動資産	43,086,861,394	40,529,307,336	2,557,554,058
資産の部合計	147,627,866,030	141,750,209,482	5,877,656,548
固定負債	5,704,639,025	6,367,715,626	△ 663,076,601
流動負債	18,286,056,384	18,955,292,911	△ 669,236,527
負債の部合計	23,990,695,409	25,323,008,537	△ 1,332,313,128
第1号基本金	114,608,773,392	103,866,588,399	10,742,184,993
第2号基本金	8,500,000,000	11,200,000,000	△ 2,700,000,000
第3号基本金	100,000,000	100,000,000	0
第4号基本金	1,701,000,000	1,701,000,000	0
基本金の部合計	124,909,773,392	116,867,588,399	8,042,184,993
消費収支差額の部合計	△ 1,272,602,771	△ 440,387,454	△ 832,215,317
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	147,627,866,030	141,750,209,482	5,877,656,548

夏休みなどに利用できる附属施設

施設	場 所	収容人数	利用対象	申し込み期間	申し込み先	料 金	特 色	備 考
学生研修センター	野 田 キャンパス	84人	在 学 生 教 職 員	利用希望日の 前々月の1日から 利用日の2日 前まで	(神楽坂)学 生 課 (野 田)学 生 課 (長万部)学 生 課 (久喜)学 生 課 (山 口)学 生 課 (諏 訪)学 生 課	使用料(1泊) シーツ代 浴衣代 500円 250円 150円	記念自然公園、体育施設が隣接している	8/24~9/14は利用不可 車の乗り入れは原則禁止
研修所	千 葉 県 山 市	71人	在 学 生 教 職 員 家族 維持会	利用希望日の 前々月の1日から 利用日の2日 前まで	(神楽坂)管 財 課 (野 田)管 財 課 (長万部)管 財 課 (久喜)管 財 課 (山 口)管 財 課 (諏 訪)管 財 課	使用料(1泊2食) 在学生 教職員 教職員の家族・維持会員 小人(3歳~小学生) 3,000円 3,300円 4,300円 2,500円	房総半島最南端に位置し、テニス、海水浴、釣りを楽しめる	8/1~9/15の利用については抽選を行う 抽選の受付は6/17~6/24(土日を除く)
谷川山荘	群 馬 県 利 根 町	40人	在 学 生 教 職 員 家族	利用希望日の 前々月の1日から 利用日の2日 前まで	(神楽坂)学 生 課 (野 田)学 生 課 (長万部)学 生 課 (久喜)学 生 課 (山 口)学 生 課 (諏 訪)学 生 課	使用料(1泊・自炊) 6/1~9/30 10/1~5/31 シーツ代 200円 300円 200円	谷川岳の麓に位置し、四季折々のスポーツが楽しめる	
諏訪セミナーハウス	諏 訪 キャンパス	100人	在 学 生 教 職 員	利用希望日の 前々月の1日から 利用日の2日 前まで	(神楽坂)学 生 課 (野 田)学 生 課 (長万部)学 生 課 (久喜)学 生 課 (山 口)学 生 課 (諏 訪)学 生 課	使用料(1泊) 在学生 教職員 700円 1,000円	白樺・蓼科高原まで車で20分程度。四季折々のスポーツが楽しめる。体育館、グラウンド、テニスコートがある	食事は学生食堂を利用できる
長万部学寮	長 万 部 キャンパス	140人	在 学 生 教 職 員	利用希望日の 2か月前から休暇 に入る日の7日 前まで	(神楽坂)学 生 課 (野 田)学 生 課 (長万部)学 生 課 (久喜)学 生 課 (山 口)学 生 課 (諏 訪)学 生 課	管理費(1泊) 朝食 昼食 夕食 1,000円 350円 500円 650円	内浦湾を一望でき、体育館、エソール会館、グラウンド、テニスコート、ゴルフ練習場がある	利用可能日 (8/3~9/21) (12/14~1/13) (2/22~3/10) 8/15~18,12/29~1/3を除く

館内禁煙

のお知らせ

平成十五年五月一日より、健康増進法が施行されました。この法律では、不特定多数の利用する公共施設や職場では原則禁煙を旨とし、施設の管理者は受動喫煙（他人の煙草の煙を吸うこと）を防止するために必要な措置をとることが義務付けられています。

煙草の煙の中には、人体に有害な数百種類の化学物質が含まれていますが、この有害物質は喫煙者本人が吸い込む「主流煙」より、空気中に漂う「副流煙」に

最新の研究成果 次々

ルイ・パストゥール大学と「シンポジウム2003」開く



東京理科大学とルイ・パストゥール大学との十二念して「東京理科大学・ルイ・パストゥール大学シンポジウム2003」物質と生命の科学（主催：東京理科大学、後援：フランス大使館）が、六月五日（木）、六日（金）の両日、本学森戸記念館で開催され、参加者は本学教員、大学院生など延べ二百四十人にのぼった。

岡村学長と、ルイ・パストゥール大学のベルナール・エレスマン副学長の挨拶で開会。ルイ・パストゥール大学から八人、本学から十四人計二十二人の研究が、合成化学、材料科学、生命科学、認識を中心とする多岐の分野にわたる最新の研究成果を発表した。本学からは、公募により選ばれた講演者（木、六日（金）の両日、本学森戸記念館で開催され、参加者は本学教員、大学院生など延べ二百四十人にのぼった。）の発表もあつた。シンポジウムは全て英語でおこなわれ、活発な討論がなされた。

討論では、発表内容とは異なる分野からの発言も多く、近年の学術研究の特徴である学際性を象徴する盛況ぶりでも、講演予定時間を超えることもしばしばであった。

初代「ルイ・パストゥール大学との学術交流委員会

会委員長である上村浩教授（本学顧問・理一応物）による総括の後、吉田充輝教授（東京理科大学と外国の大学等との学術交流委員会委員長・基礎工学）とセブションもあり、岡村学長、塚本理事長、本学講演者や関係者と、ルイ・パストゥール大学の講演者、フ

二日間わたるシンポジウムをつがなく終えた。今回のシンポジウムの成功は、今後の両大学の学術交流の一層の進展につながるものであり、日仏両国の友好と文化交流推進にも貢献する好機ともなった。

態形成研究) (2)植物生命工学(新機能開拓研究、植物機能制御研究、生理活性利用研究) (3)研究組織名:再生工学研究センター/研究代表者:友岡康弘・基礎工学研究科教授

この事業は、私立大学の大学院研究科、研究所の中から、ベンチャー企業や地域企業等との有機的な連携の下で産学共同研究を行う研究組織を「産学連携研究推進拠点」に選定し、総合的かつ重点的に支援するものである。これにより、機器・三次元モールド用電子

恩田 邦藏



幸にも事故に遭遇した。事故の報告書をまとめる段階で、事故直後に学生は、強い固な友愛とお互いを助け合う精神並びに仲間への思い

△調査報告▽

きく前に飛ばされる者が続出した。学生の多くは気を失った。1号車は、最終的に函館本線のレールをまたぐ位置に本来の姿で座席を包んだ。そして、静寂と暗闇が辺りを包んだ。実際には、1号車のエンジン音が辺りに鳴り響いていたのだが、そのとき意識を失っていたのか、そのとき学生は、そこにはいなかっただけである。それは、異様な静寂があったと後日述べて

の引率は1号車へ救助へ向かうべく、そこにたどり着く道を探していた。結局、国道5号線を函館館へ約四百m程戻ったところに転落現場に通じる作業道（以後、作業道と記述）があったのだが、それ

外の学生は自力で脱出できた。そして、軽傷学生による重傷学生への救出が始まった。事故の衝撃で、バス側面下部分の扉が翼のようにはねあがり堅く固定された状態となっていた。そこが便利な足場となっていた。バス内の怪傷学生が重傷

を収納するための小屋（以後、作業小屋と記述）の戸が開いた。重傷學生をその中に収容した。作業小屋の中は真つ暗であつた。

このころやつと、2、3号車中の引率が、転落現場へ続く作業道を

めた。作業小屋内はもう重傷者でいっぱいであつたため、作業小屋の前に横たわらせるしかなかつた。彼の上に細かく冷たい雨が降り続いた。皆が救急車を待ちわびていた。

作業小屋では、いまや遅しと般
急車を待っていた。救急車のサイ
レンが聞こえ、軽傷の寮友が重傷
学生を「救急車のサイレンだ！と
う少した。がんばれ！」という
うな言葉で励ましていた。作業
人口では、各上庄車庫の多助

号車が現場を後にした。その時は午後九時二十分、事故発生から二時間五分が経過していた。その後2号車と3号車は合流し、長部キャンパスへ帰路についた。

車は、最終的に函館本線のレールをまたぐ位置に本来の姿勢で鎮座した。そして、静寂と暗闇が辺りをつつ包んだ。実際に、1号車のエンジン音が辺りに鳴り響いていて、そのとき意識を失っていたのだが、そのとき意識を失っていた学生は、そこにはなかったと後日述べている。

このころ路線橋の上では、こののろろ降りがかった突然の事故に京然としてしまっていた。

信じられない出来事に騒然となつていた。2号車、3号車は路線橋上の路肩に停車し、両車両の引索とバス運転中は1号車が突き破つた方ドレールのところまで走つた。そこから、転落した1号車が下方の暗闇の中にポト浮き出

かきさけ苦しんだ。

さて、静寂と暗闇の中の1号車
内では、バスの後部エンジンから
異様な臭いが漂ってきていた。
「バスは線路上にある！ここは停
んだ！脱出しなければ！誰とも
なげ脱出の動きが始まった。外
も暗い地面が広がっていた。窓
ガラスのいくつかは、割れることな
くフレームごとはずれていた。ま

きこを知った彼らの動きは慎重であると同時に手速かった。そして、そのように動くことが彼らの心をもパニックから守ったとも分析される。学生全員の脱出に要した時間は十分以内であったと推定されている。

る。引率は、この後、救急車を
傷学生のところまで誘導すべく奔
走する。

事故直前、1号車内は暖房が効
いていたため、学生は外着を脱
ぎ、約半数は靴も脱いでいたた
のだが、転落時の大きな衝撃で靴
が脱げてしまっていた。そんな中
で、バスから脱出した負傷学生の

め、悪路の歩行は苦痛を伴うものであった。作業道を約四百日程歩いて国道5号線に出たところ（以下略）後、作業道入口と記述した、轢傷学生が集まった。そこに救急車も到着。その負傷学生たちは、「もつと重傷の者がこの道の向うにいます。我々より先に彼らに収容してください」という内容のことを口々に救急隊員に告げた。

あいた。引率の一人が救急車を
導して、救急隊員と共に作業小
屋へ向かつて走る。救急車が作
業小屋に到着、最も重傷と思わ
れ、傷学生を収容する。救急車
は病院へ向かつて出る。傷学
生は数人、軽傷学生は数人、引
率二人が見送った。さあ、一秒
も早く病院へ、一秒でも早く医
院へ、一秒でも早く……皆の思
いは、皆の思いは、皆の思いは
あつた。そのとき時刻は午後四
時三十分、午後四時三十分、

事故状況と負傷学生の救
助・保護の活動の本質的
と思われるところを記述し
た。ここに記述した他にも
勇気ある行動、献身的な行
動が数々見られたことを旨
記しておく。

◆…ゲノム創薬と神経科学をテーマに

◎参加費：2,000円（本学大学院生および学部生は無料）
＊主催：東京理科大学薬学部／共催：同薬学部同窓会・
日本薬剤師研修センター（研修認定対象研修会）
＊問い合わせ先：東京理科大学薬学講座実施委員会
TEL.04-7124-1501 内線6405 / Email : yakugaku@admin.tus.ac.jp

——『神楽坂まちの手帖』編集長 平松 南——



稿 ◆ ◆ **寄**

ジャズがブームになって
特に女性ファンが増えてき
たのは、オヤジジャズ愛好
家としては、とても嬉しい

い。江戸情緒の残る粋なま
ち神楽坂にも、そのブーム
は静かに来ているようだ。
毘沙門裏に赤坂からライブ

レストランが引越してきたし、神楽坂下では、地下鉄飯田橋駅B3出口となりのドトール飯田橋神楽坂店

3Fを貸し切つて、東京理科大学ジャズ研究会が、今年五月から毎月一回第二十九日の夕方に定期コンサートを始めた。四月二十五日に創刊された季刊地域総合誌『神楽坂まちの手帖』が主催するコンサートである。神楽坂をそぞろ歩いて降りてくると、美しい旋律が流れて来る。都心ならではの光景である。

東京理科大学は、神楽坂から来て九十七年になる。それからすると、理科大ジャズ研の歴史は、祖父と孫くらいの差があるが、それでも一九六七年から三十六年の歴史を誇っているのは大

した物である。一九六七年といへば、筆者の二十歳代。世の中、学生運動に荒れ、こゝ神楽坂も学生のヘルメット姿が目立っていたが、そうした中で淡々とジャズに明け暮れていた学生がいたのも面白い。あのころは、コルトレンやドルファイ、アイラーなど激情のジャズが流行だったように思う。余談だが、神楽坂にもそのころの雰囲気を残すジャズの店がある。坂上レインタイム」は、六〇年代をそのまま残している。さて、理科大ジャズ研メンバーは、テナーの石川陽

平をリーダーに、ギター・全
元誠、ベース・都築陽一、ド
ラムス・北澤誠のカルテッ
ト。息の合った演奏を展開
しているの、ジャズファ
ンのかたは、ぜひ「ドトー
ルCAFÉコンサート」を
覗いて下さい。決して損は
しないとおもいます。

▽日時 毎月第二土曜日
17:30～18:30

▽入場無料（ただしドリン
ク一品とつて下さい）

▽会場 ドトール飯田橋橋
楽坂店3F

▽主催 地域誌『神楽坂ま
ちの手帖』

▽問い合わせ 03・355
13・5670（けやき舎）

救急車は作業道を進もうとして、
が、路の詰車の車間が行く手を
でいた。救急車はしばらくそ
での立役を生を余儀なくされ
た。

2、3号車に走る数人の軽傷
生がいた。2、3号車の学生は
バス内で機嫌していた。引率
がバス運転は、二次災害防止
考え、彼らバスの外に出ない
う指示していた。2、3号車内
学生達は、何か自分達にでき
ることはないか思索しながら、窓
から緊迫する外の様子を見守っ
た。そこでその軽傷学生がた
ちに着き、外着靴がたぐさん必要
あることを訴えた。2、3号車
の学生達は、進んで自分の外着
靴を提供した。たぐさんの外着
靴が軽傷学生のとこに届けられ

八分、事故発生から五十二分が経過していた。

作業道入口では、二台目の救急車に、そこ待つ負傷学生のうつろい、症状の数、救急車に収容される病院、と向かつた。また、この縣警本部の学生数人が、この近くに住民家の申し出を受けて、倉庫で暖をとらせてもらい、その後、救急車で病院へ搬送された。

踏線橋上の3号車に避難した2号車もいた。その軽傷学生も、その後の救急車で病院に搬送された。

このようにして、1号車乗車学生は全員、救急車により病院と搬送された。

負傷生の救急車への収容が

めた。作業小屋内にも、重傷学生がいて、たゞはいてあつたため、作業小屋の前に横たわらせろゝかなかつた。彼の上に細かく冷たい雨が降つて続いた。皆が救急事待たわびていた。

残りの自傷学生の多くは、作業道を歩いて避難を始めていた。体は雨にぬれ、寒さが彼らを襲つた。さらに、靴を履いていないたつて、悪路の歩行は苦痛を伴ふものであつた。作業道を約四百メートル歩いて国道5号線に出たところ以後、後、作業道入口と記述に、軽傷学生が集まつた。そこに救急車が到着、その自傷学生たちの「もつと重傷の者がこの道の間」にいます。我々より先に彼らを収容してください」という内容のことを口々に救急隊員に告げた。

3Fを貸し切つて、東京理科大学ジャズ研究会が、今年五月から毎月二回第二十年の夕方に定期コンサート

作業小屋では、いまや煙と救急車を待つていた。救急車のサイレンが聞え、軽傷の寮が車重運搬を学生を「救急車のサイレン」でもう少した。がんばれ！というように言葉で励ましていた。作業員は入口では、路上駐車を両側に移動し手取り、救急隊は進めぬままに時間だけが過ぎていった。そしてやっとその車が移動し、道が空いて、引率の一人が救急車を先導して、救急隊員と共に作業小部屋到着、最も重要と思われる負傷學生を収容する。救急車は病院敷地内に向けて出発、輕傷學生数人司子早く病院へ、一秒でも一秒でも早く人が見送った。一秒も医課のところへ……皆の思いは後刻時

とした物である。一九六七年といえば、筆者の二十歳代。世の中、学生運動に荒れ、この神楽坂も学生のへ

以上が、事故現場の状況の大概である。ここには、事故状況と負傷学生の救助・保護の活動の本質的と思われるところを記述した。ここに記述した他にも、勇気ある行動、献身的な行動が数々見られたことを付記しておく。

助教になってハーバード大学で三年、ワシントン大学でもちょうど三年が過ぎた。いま放射線腫瘍学講座に所属し、放射線による治療効果をいかに高めるかに取り組む。効果的にがん細胞を殺しつつ、正常細胞へのダメージを最小限にする方法を、細胞生物学、分子生物学的アプローチを使い研究している。臨床系の講座なので、実際に患者を治療している医師たちと協力して、どのように特別仕立ての医療を供給できるかも重要な研究課題だという。

科学への漠然とした想いをもっていた少年時代、祖母ががんで死んだことが、医学研究に興味をもつきっかけになった。

大学受験で医学部か薬学部かと考える中、化学ががん物質や抗がん剤について書かれた若波新書などを読んで、急速に薬学部への関心が高まった。人の死に慣れたくない、というナイーブな動機もあった。理科大を選んだのは学費が最も安く、学生の質も高いと判断したからだ。

最初から研究職をめざし、大学院(修士課程)では毒性微生物化学研究室で上野芳夫教授・田代文夫講師(当時)のもと、アフラトキシンB1の肝臓毒性を研究した。アフラトキシン



★略歴 1961年3月生まれ、埼玉県出身。東京理科大学薬学部薬学科卒、86年に同薬学研究科修士課程、89年東大薬学部生命薬学科博士課程を修了。渡米し、Wistar研究所(フィラデルフィア)博士研究員、プリンスストン大学分子生物学部博士研究員を経て、97年にハーバード大学医学部助教授。2000年からワシントン大学(セントルイス)医学部助教授。



がん治療の研究を進める
ワシントン大学医学部助教授

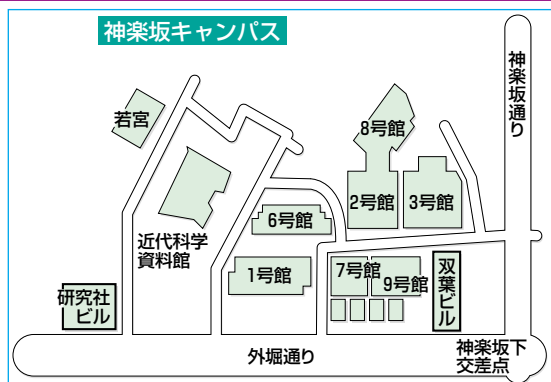
掘越 信夫さん

は殺物に生えるカビが産生する毒素で、特に開発途上国では肝がんの主要な原因物質。この汚染殺物を食べると、毒素が体内に入り、肝臓で代謝されて細胞内のDNAを特異的に修飾する。

「私の研究は代謝されて活性化されたアフラトキシンが細胞内の重要なタンパク質、ステロイドホルモン受容体も修飾し、その毒性の発現に寄与するというものでした」

留学は博士課程の指導教官であった名取俊二教授(東大薬学部、微生物薬品化学Ⅱ当時)から「フイデルフィアからポストドクの依頼があった、給料は出るぞうだ」といわれたので即座に決めた。渡米して戸惑ったのは実験台の高さ。日本ではほとんどない高さの安全に気を配らざるを得ないことが、プレッシャーにもなった。いまだに慣れないのが、量が多く油っこく、味付けも良くない食事だ。

現在、臨床系の教授達とも共同研究を通じて交流が広まりつつある。今後はがん細胞の放射線に対する応答の分子メカニズムの基礎研究を進め、その成果を放射線治療の実際に役立てたいと語る。東京に本社を置くバイオベット株式会社の取締役でもある。信子夫人との間に一男一女がいる。(K)



事務室	移転先
総務課	研究社ビル3階
庶務課	
入試センター (入試課・広報課)	双葉ビル1階
周年記念事業事務室	
生涯学習課	
経理課募金室	双葉ビル2階
庶務課国際交流室	
企画調査課	
人事課	近代科学資料館2階
研究協力一課	
科学技術交流センター・事務課	1号館1階
学務課	1号館11階

◆神楽坂キャンパスで事務室の移転がありました。

野田 キャンパスには、自然林の雑木林と豊かな水に抱かれた記念自然公園がある。この自然公園では、一周三十分程度のコースを、綺麗な空気を吸いながら散策を楽しめる。森の中には静寂に満ち、春から夏にかけて多くの野鳥が飛来して巣づくりし、巣立つていく。鶯、カッコウやキジなどの声が響き渡り、学生や周辺住民にとって格好の憩いの場となっている。

この自然公園には五つの池が点在している。そこでは、鴨も水遊びをし、亀が日光ぼっこをしていて、大

白鳥のヒナ5羽あわれ...

野田



久喜 キャンパスのテニスコートわきに藤棚ができた。久喜キャンパスにはクレイコートとハードコートがあり、授業や部活動で活用されている。久喜関係者だけでなく、二部ソフトテニス部にも定期的に利用されているが、このたび二部ソフトテニス部の現役・OB・OGから立派な藤棚が寄贈されたもの。まだ棚を覆うほど枝葉は茂っていないが、来春の開花が楽しみ。

新・憩いの場 藤棚と東屋

楽しみ。これからの季節、練習や試合の合間にテニス仲間の憩いの場所になるだろう。また、藤棚と並んで神楽坂サービス株式会社から寄贈された東屋も設置され、学生たちが歓談している姿が見受けられる。そのかわりに、藤が優しい葉陰を広げて、久喜キャンパスとともに育っていくことを期待したい。

8・9月の図書館 開館・休館日時 案内

	8月	9月
	開館日	休館日
神楽坂図書館	月曜～金曜 9:00～18:45	土曜・日曜
野田図書館	月曜～金曜 9:00～17:00	11日(月)～20日(水)
久喜図書館	月曜～金曜 9:00～17:00	1日(月)～22日(月) 9:00～18:45 24日(水)～平常通り [9:00～21:30] 1日(月)～22日(月) 9:00～17:00 24日(水)～平常通り [9:00～19:00] 1日(月)～22日(月) 9:00～17:00 24日(水)～平常通り [9:00～20:00]

「ご意見・ご感想をお待ちしています！」

「東京理科大学報」に関するご意見やご感想、情報をお寄せください。今後の紙面への参考にさせていただきます。

【宛先】〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3 東京理科大学広報課

【電話】FAX 03-5228-6107 / 03-360-5623

【E-mail】koho@admin.tus.ac.jp

夏休み期間中(8/1～9/12) 窓口事務の取り扱い時間

取り扱い日: 8/1(金)～8/8(金)、8/21(木)～9/12(金)。土曜・日曜を除く。9/16(火)から平常通り。

校舎	事務	取り扱い時間
神楽坂	理学事務課	10:00～15:00
	工学事務課	
	第二部事務課	15:00～18:30
	学生課	9:00～19:00
	経理課	10:00～15:00
	就職一課	9:00～19:00
野田	保健管理センター	月・水・金 9:00～18:00 火・木 9:00～15:00
	総合情報システム部	9:00～16:00
	入試センター (入試課・広報課)	9:00～17:00 土曜10:00～16:00
	薬学事務課	
	理工学事務課	
	基礎工学事務課	10:00～15:00
久喜	学生課	
	庶務課	
	就職二課	
長万部校舎	総合情報システム部	10:00～16:00
久喜校舎		8:30～17:00
		9:00～16:00

注: 12:00～13:00を除く。

Open Campus 2003 Tokyo University of Science

—2003年夏、オープンキャンパスで最先端をものにする—

8月8日(金)	8月7日(木)	7月12日(土)
【神楽坂キャンパス】	【野田キャンパス】	【久喜キャンパス】
11:00～16:30 入退場自由	10:00～16:30 入退場自由	14:00～18:00 入退場自由
●模擬実験・模擬講義/公開実習	●個別進学相談	
●入試概要説明/進路状況説明	●研究室見学	
●資料・入試問題配布	●平成15年度入学試験問題解説	

【お問い合わせ】

<神楽坂キャンパス(入試センター)>
電話 03-5228-8092(直) FAX 03-5228-8093

<野田キャンパス(庶務課)>
電話 04-7124-1501(代)

<久喜キャンパス(久喜校舎事務部学務係)>
電話 0480-21-7600(代)



東京理科大学 入試センター OPEN!

2003年春、東京理科大学神楽坂キャンパスに、受験生の入試に関する様々な質問や紹介に、最新の設備でより一層わかりやすくお答えできる「入試センター」がオープンしました。どうぞ気軽にお立ち寄りください!

受験生は入試センターにアクセス

◇開館時間 平日9:00～19:00 土曜10:00～16:00
※夏期(8/1～8/8、8/21～9/12)のみ平日は9:00～17:00まで
8/9～8/20は休館

<お問い合わせ> TEL 03-5228-8092 FAX 03-5228-8093
〒162-8601 新宿区神楽坂1-3 東京理科大学入試センター

「お詫び」 4月25日付学報(148号)6面 山口東京理科大学ニュース物質・環境工学科から「井口和雄君が日本化学会中国四国支部・支部長賞を受賞」とあったのは「江口和雄君が受賞」の誤りでした。お詫びして訂正します。